



西河 巧

農林業の振興と、町の活性化

問 農業は、能勢町の重要な基幹産業であり、農産物を生産するだけではなく、治山治水や地球温暖化、生物の多様性を維持していくためにも、大事な産業であると思う。

そこで、次の八項目について、問う。①農林業現状と今後の展望について

町長の認識を問う。②農業人口の増加に向けた取り組みについて③農業資源や林業資源を活用した活性化について④農産物の6次化について⑤観光物産センターの現状と今後展望について⑥獣害対策について⑦能勢栗、銀寄の現状と今後の展望について⑧農業関連企業への誘致、取り組みと進捗よく状況を問う。



答 今後の展望としては、

営農相談や支援等により、担い手の定着に取り組みと併せ、法人等の農業進出を促進させることで、農業振興をはかる。

林業では、民間企業等の森林管理に投資を促し、林業従事者を育成するとともに、地球温暖化対策や生物の多様性の保全をはかる。

農業人口増加に向けて、関係機関と連携して、就農支援や若手農業者の育

成をする。

平成30年に能勢町六次産業化・地産地消推進協議会を設立し、六次産業化及び、地産地消への活動を進めている。

物産センターは、本町の地域振興の拠点として、情報発信基地として、地域商社化、DMO化への取り組みを進める。

獣害対策については、大阪府猟友会能勢支部の協力による有害鳥獣捕獲事業および、防護柵の購入補助事業を実施している。

栗については、苗木購入補助をおこなっている。能勢町高度産業化プロジェクトで、農業関連企業の誘致に、取り組んでいる。

一般質問



伊木 真由子

新型コロナウイルス感染症に伴う差別や偏見

問 世間では、コロナによる差別や偏見が増えて

いる。様々な団体が、感染することや、感染者が出た場合の差別等への怖さと戦いながら、活動を再開している。町の対応を問う。



問 差別や偏見をなくするための、学校での取り組み状況を。

答 不当な差別や偏見は許されるべきではない。折込みチラシやホームページで啓発に努めている。今後も国、府の情報を正確に伝え、差別解消に向けて取り組んでいく。

問 感染への不安や生活の変化によるストレスが、差別や偏見に繋がっているのではないか。相談できる窓口は。

答 福祉課では、コロナ関連やそれ以外のことに

問 子どもたちは学ぶ機会があるが、大人にはない。感染された方がどうしてほしいか、何ができるか考える機会があれば良いと考える。コロナを通して、いま一度、差別について考えることが必要ではないか。

答 コロナ禍を通じ、もう一度原点に立つて考えていくことは、当然必要であり、一つの契機になると考える。



新型コロナウイルス感染者や医療従事者への差別や偏見をなくすためのプロジェクト